

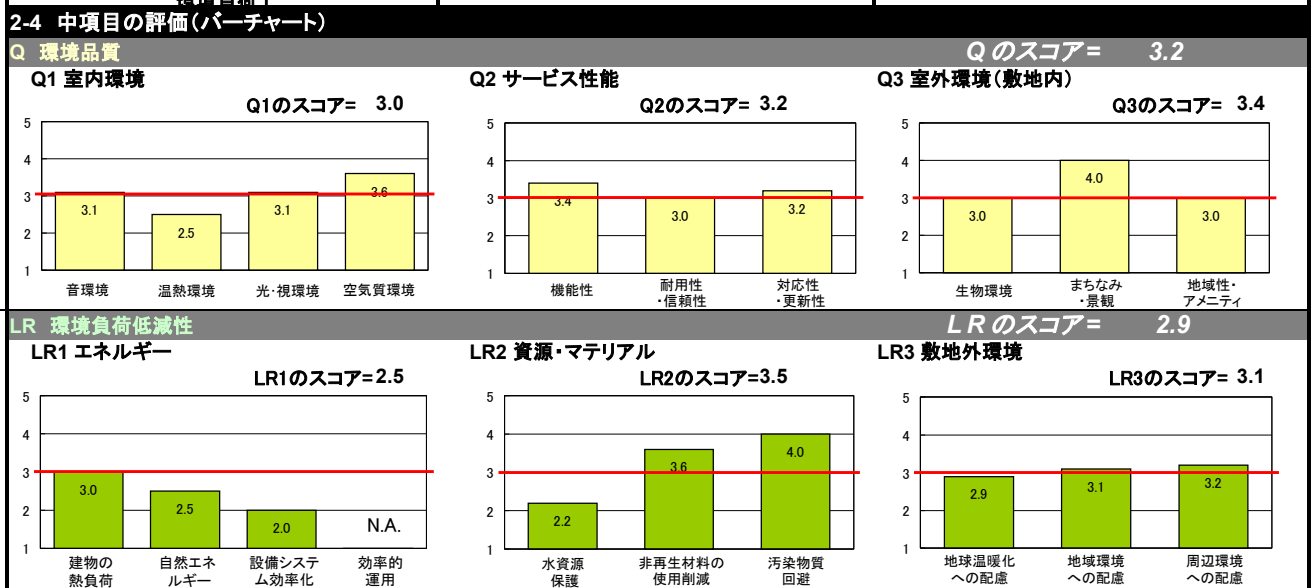
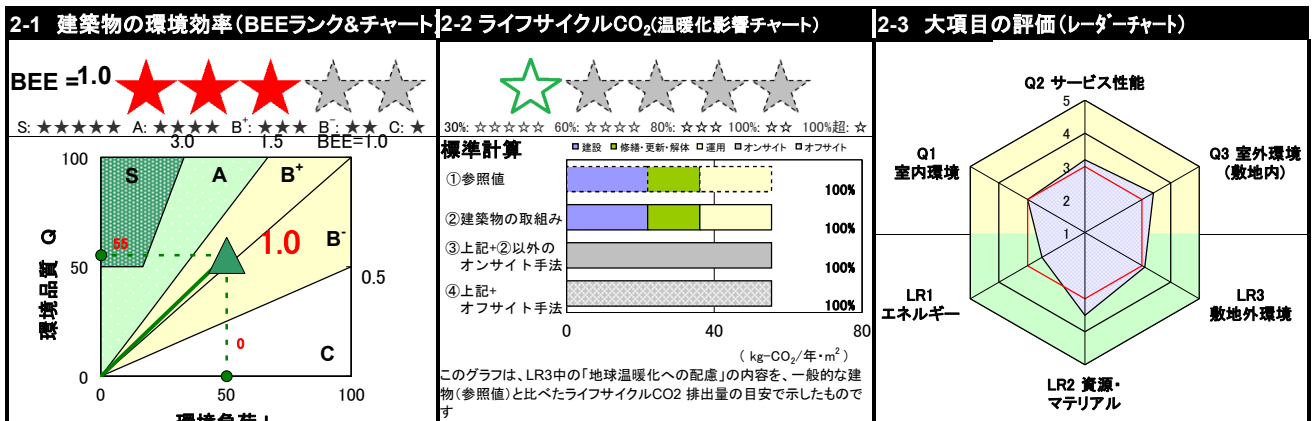
この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終る2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築[簡易版]

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2(BPI/BEI対応) | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.1)

評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	藤田学院学生寮	階数	地上3F	
建設地	鳥取県倉吉市	構造	RC造	
用途地域	商業地域	平均居住人員	97 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年6月4日	
敷地面積	2,491 m ²	作成者	片山和夫	
建築面積	1,028 m ²	確認日		
延床面積	2,783 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項			その他
総合 21世紀の地域社会に貢献出来る学生の安らぎと鋭気を養う建物とする。寮生が協同生活を通じて、協調性・コミュニケーション能力を養える場とする。			
Q1 室内環境 寮室は、快適な住環境を確保できるように遮音性能を考慮している。	Q2 サービス性能 建築物移動等円滑化基準(バリアフリー法)を、福祉のまちづくり条例により適合させている。	Q3 室外環境(敷地内) 建物を低層化、分棟する事によって近隣環境(街並み)との調和を図るように配慮している。学生寮建設にあたって、出来るかぎり緑地(芝張り)を確保し、生物資源を敷地内に再生するように配慮している。	
LR1 エネルギー 高効率照明器具(LED)、人感センサー、トランスフォーマー変圧器、細かな照明ゾーニング計画等により省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 建築資材はリサイクル材料(グリーン購入法)を使用することで、資源消費の低減に配慮している。	LR3 敷地外環境 外構の大部分を芝張りすることで、敷地外への熱的な影響(ヒートアイランド現象等)を低減するように配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい